

# 天竜区佐久間町城西地区・山香地区における 民間口承文化財（昔話）の調査・記録・公開による地域文化の保存と継承

静岡文化芸術大学 文化政策学部 二本松康宏ゼミ

指導教員：教授 二本松康宏

参加学生：3年生 鬼沢知里、高淵早紀、辻榮春菜、丸山凜

4年生 鈴木実咲、滝澤未来、服部奏、廣濱波貴

※4年生はサポート参加

## 1. 要 約

浜松市天竜区佐久間町における民間口承文化財（昔話）の採録調査を通して地域文化の保存と継承を目指す。地域に伝わる伝説や家庭のなかで語り継がれてきた昔話は、その土地に生きた人々の心と記憶が積み重なった文化的遺産である。しかし、近年の加速的な高齢化と過疎化の進行によって、こうした民話の伝承は急速に失われつつある。それは単なる語りの消滅にとどまらず、民話の伝承とともに育まれてきた地域アイデンティティそのものの危機でもある。民間口承文化財（昔話）の記録と保存、そして公開と継承は、地域アイデンティティの再生と文化財保護の観点から見ても喫緊の課題である。

静岡文化芸術大学 二本松康宏ゼミ（伝承文学ゼミ）では、これまでに浜松市天竜区水窪町（2014年度～2016年度）、龍山村（2017年度）、春野町（2018年度～2023年度）、熊地区（2024年度）において、民話の採録調査を続けてきた。これらの成果は年度ごとに書籍として刊行され、新聞・テレビ・ラジオ等の各種メディアでも紹介されるとともに、学術成果として日本昔話学会などにおいても高い評価を受けている。

こうした実績を引き継ぎ、2025年度には天竜区佐久間町城西地区・山香地区において、同様の採録調査を実施した。採録した民間口承文化財（昔話・伝説・世間話・言い伝え）については、学術的な位置付けおよび記録価値を精査したうえで、口承文化財としての保存（アーカイブ）を目的とし、「方言のまま」「語り口のまま」に翻字・記録する。また、伝承地域の解説を付し、書籍としての公開（刊行）を目指す。

静岡県



浜松市天竜区



佐久間町



### 佐久間町 城西地区

世帯数 241 世帯

人口 429 人

65歳以上 317 人（高齢化率 73.9%）

14歳以下 5 人

### 佐久間町 山香地区

世帯数 161 世帯

人口 282 人

65歳以上 209 人（高齢化率 74.1%）

14歳以下 6 人

（2025年10月1日現在）

昭和31年(1956)	磐田郡浦川町、佐久間村、城西村、山香村が合併し、磐田郡佐久間町が成立
平成17年(2005)	天竜市、磐田郡水窪町、磐田郡龍山村、周智郡春野町とともに浜松市に編入
平成19年(2007)	浜松市が政令指定都市に移行。天竜、水窪、龍山、春野とともに浜松市天竜区となる

## 2. 研究の目的

### (1) 昔話の調査と研究の現状

日本各地の山間地域では極端な高齢化と過疎化が進行し、かつてのように昔話を語り伝える人々は急激に減少している。それは地域におけるコミュニティとアイデンティティの危機でもある。1970年代から1990年代前半にかけては、昔話研究懇話会（日本昔話学会）や日本口承文芸学会を拠点として、多くの大学のゼミや研究会による組織的かつ本格的な昔話の採録調査が全国各地で展開され、調査報告書の公刊が相次いだ。しかし2000年以降、そうした調査の継続は次第に困難になったといわれている。

**背景1.** 「お年寄り」の減少 → 高齢者は増えたが、戦後の高度経済成長を支えて働いてきた人たちは昔ながらの昔話を語るような「おじいちゃん」「おばあちゃん」ではなくなった。

**背景2.** 少子化の影響 → 山間地域では極端な少子化が進み、孫と同居する高齢者が減ったため、高齢者は自分が幼少期に聴いた昔話を孫に語る機会がなくなった。現役の語り手ではなくなった。

### (2) 佐久間町におけるこれまでの取り組み

1982年（昭和57）には旧佐久間町教育委員会から『さくま昔ばなし』が刊行されている。その後、佐久間町は「歴史と民話の郷」を掲げたまちづくりを推進してきた。幼稚園や小学校、さらには佐久間民俗文化伝承館における語り部グループ「やまんばの会」の活動は特筆すべき取り組みである。

ただ、同書は『静岡県伝説昔話集』（静岡県女子師範学校郷土史研究会、1934年）や旧村史、旧町史をもとに編集されたもので、掲載された民話も再話（読み物として整え直された形）が多く、一部には脚色性・創作性が認められるため、口承文化財の記録としての価値・評価は限定的と言わざるを得ない。

## 3. 研究の内容

### (1) 調査の方法

#### ① 採録調査（集団採録と個別訪問）

- ・ 自治会を単位として高齢者に呼びかけ、最寄りの集会所などに集まっていただく
- ・ 集団採録で見出された語り手については、個別に訪問して採録を継続する

#### ② 翻字

- ・ 採録した民話を「語りのまま」「方言のまま」に翻字する。

#### ③ 補足調査

- ・ 民話を語り伝えてきた背景にある「暮らし」にこだわる。

### (2) 調査の記録

1	5/24(土)	上平山集会所、野田自治センター	13	10/18(土)	佐久間図書館
2	5/31(土)	大滝公民館、城西ふれあいセンター	14	10/25(土)	佐久間図書館／川合の花の舞
3	6/ 7(土)	山香ふれあいセンター、戸口集会所	15	11/ 8(土)	補足調査／今田の花の舞
4	6/14(土)	個別訪問	16	11/15(土)	補足調査
5	6/21(土)	個別訪問	17	11/22(土)	補足調査
6	6/28(土)	龍頭コミュニティ会館、城西ふれあいセンター	18	12/ 6(土)	補足調査
7	7/ 5(土)	仙戸集会所、相月区民館	19	12/13(土)	補足調査
8	7/12(土)	瀬戸公民館、個別訪問、櫛エヌエー佐久間工場会議室	20	12/17(水)	補足調査
9	7/19(土)	個別訪問	21	12/25(木)	補足調査
10	7/26(土)	個別訪問	22	12/27(土)	佐久間図書館
11	8/ 6(水)	個別訪問	23	1/10(土)	補足調査
12	8/ 7(木)	個別訪問	24	1/11(日)	補足調査
			25	1/18(日)	佐久間図書館
			26	2/ 4(水)	補足調査

### (3) 採録調査の様子



### (4) 採録の成果

本研究では120名の語り手から昔話71話、伝説70話、世間話61話、言い伝え38話、合計240話を記録した。書籍にはその中から46名の語り手による昔話34話、伝説32話、世間話20話、言い伝え12話、計98話を掲載する予定である。

#### ※【参考】民間口承文芸（民話）の分類

昔話	時代と場所を特定しない（むかしむかし、あるところに）。家庭内で「子どものおとぎ話」として語り継がれてきたため、他人の前で話すのは恥ずかしいこととされがちで表に出にくい。
伝説	時代や場所を特定し、その土地では歴史的事実のように信じられている。伝説をよく知る人は、その地域で「古老」「ものしり」として知られているため、採録調査は比較的容易。
世間話	自分自身や近親者、知人などを取り巻く地域やコミュニティのなかで、「体験談」や「噂」として語り伝えられる。近年の「都市伝説」や「学校の怪談」もこの範囲に含まれる。
言い伝え	習慣や習俗、謂れなど。ストーリーを持たない。

### (5) 「語りのまま」「方言のまま」— 民間口承文化財の継承

『さくま昔ばなし』（佐久間町教育委員会、1982年）をはじめ、これまで刊行・公開されてきた書籍や教材の多くは、子どもにも理解しやすいように標準語化され、再話として構成されたものであった。語りの場に固有の語り口や方言的表現は少なからず整理・省略されてきた。しかし、民間口承文化財としての昔話の価値は、物語内容そのものだけでなく、「誰が、どのような言葉で語ったのか」という語りの形式や地域語彙にも深く関わっている。こうした視点に立ち、本研究では、採録した昔話を「語りのまま」「方言のまま」に翻字・記録することを基本方針とした。

なお、本研究の成果は、佐久間で活動する語り部グループ「やまんばの会」にも提供・共有し、語りの再興と継承に活用される予定である。

## (6) 書籍の刊行



## 静岡県内公立図書館への配架状況

2014年度	水窪のむかしばなし	20館
2015年度	みさくぼの民話	33館
2016年度	みさくぼの伝説と昔話	34館
2017年度	たつやまの民話	29館
2018年度	春野のむかしばなし	35館
2019年度	春野の昔話と伝説	32館
2020年度	北遠の災害伝承	18館
2021年度	春野の山のふしぎな話	34館
2022年度	春野の民話	33館
2023年度	春野のむかし語り	30館
2024年度	天竜くんまの昔ばなし	35館

## 4. 研究の成果

### (1) 当初の計画

浜松市天竜区佐久間町城西地区・山香地区において採録調査を実施。採録した昔話は「方言のまま」「語り口調のまま」に翻字・記録する。伝承地域の解説を書き添え、書籍として刊行する。

### (2) 実際の内容

A（予定どおり）

### (3) 実績・成果と課題

令和7年度の成果としてこれまでと同様に書籍を刊行する。

### 新刊 佐久間のむかしばなし

編著：鬼沢知里・高淵早紀・辻榮春菜・丸山凜 監修：二本松康宏

発行元：三弥井書店 発行予定日：2026年3月 A5版並製170頁 予定価格1,300円（税別）

### (4) 今後の改善点や対策

次年度は天竜区佐久間町佐久間地区・川合地区での採録調査を予定している。

## 5. 課題提出者・地域への提言

佐久間町城西地区・山香地区における民間口承文化財（昔話や伝説）は、語り手たちの高齢化と急速な過疎化によって、いまや風前の灯火というべき状況にある。本来、民話は世代を超えた地域文化の継承のためのコミュニケーション・ツールである。地域に伝承された伝説や家庭に語り継がれた民話を地域文化の一つとして継承して欲しい。

## 6. 課題提出者・地域からの評価

佐久間町（城西・山香）の民間口承文化財の採録調査で、地域に伝わる伝説や家庭で受け継がれてきた昔話を掘り起こす学生の皆さんの様子を何日も間近で拝見させていただきました。お話を聞かせてくださった方々は高齢者が中心で、この調査がなければ語られる機会のないまま失われていたかもしれない貴重なお話が、文化財として記録され、書籍というかたちで後世に残されることになりました。こうした取り組みは、佐久間の地域文化を将来へ伝えていくうえで大きな意味をもつものだと感じています。また、語りの場で見られた地域の皆様方の笑顔からは、学生の皆さんとの交流そのものが、高齢者の方々にとっても大きな励みになっていることが伝わってきました。伝承文学ゼミの学生の皆さん、本当にありがとうございました。

浜松市佐久間支所 支所長補佐 奥山享司様より